
シグマ帝国物語（地球侵略編）

源太郎。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

シグマ帝国物語（地球侵略編）

【Nコード】

N0930D

【作者名】

源太郎。

【あらすじ】

シグマ帝国は銀河系中心部から次第に支配領域を拡大し、地球太陽系にもその支配の矛先を向けてきた。その頃地球は、古代文明の前の時代であった。シグマ帝国は、古代文明の前の支配者の一部に近づいた。

プロローグ

シグマ帝国物語（総合編）の如く、シグマ帝国は銀河系中心部から次第に支配領域を拡大し、地球太陽系にもその支配の矛先を向けてきた。

その頃地球は、古代文明の前の時代であった。

シグマ帝国は、古代文明の前の支配者の一部に近づいた。

製鉄法を一部の地域の支配者に教え、その地域の軍事力を高め、周辺に支配を広めさせた。

その勢力は、いわゆる四大文明といわれる古代文明の中心的国家となっていた。

エジプト文明では、ピラミッドを重機を貸し出して造らせ、王の権威を高めるのを助けた。

その他の地域でも巨大な墓や建造物を重機を貸し出して造らせ、王の権威を高めるのを助けた。

それらの王をいただく国々は、食糧をシグマ帝国に貢いだ。

気に入らない人間は、処刑したことにしてシグマ帝国へ奴隷として引き渡した。

シグマ帝国軍将校が気に入った女性は、神隠し的に誘拐してシグマ帝国軍へ引き渡した。

シグマ帝国へ引き渡された奴隷は、恐竜時代のような別の星に送り込まれ、資源採掘に従事させられた。

神隠し的に誘拐してシグマ帝国軍へ引き渡された女性に囲まれ、シ

グマ帝国軍の将校は、ハーレム状態を楽しんでいた。

古代文明支配者と、シグマ帝国は持ちつ持たれつの関係にあった。

つづく

アメリカ大陸

原則、シグマ帝国は地球人一般人の前には姿を現さない方針で地球支配をする方針であったが、普通に地球人の前に姿を現して神々として支配する地域もあった。

アメリカ大陸が典型例であった。

そのため、ユーラシア大陸とは明らかに方針が異なっていたので、特にヨーロッパでは、後に聖書の世界観によって、地球が平らなことを人々の心に植え付け、海に果てがあるように思わせ、アメリカ大陸には向かわせないという策略が必要になったのである。

インドあたりでは、地球人がアメリカ大陸まで向かう可能性が低かったので、シグマ帝国軍の地球人との接触についての規律は比較的甘かった。

史実によると、古代ローマがギリシャの段階で、すでに地球が丸いことが分かっているのである。

アメリカ大陸では、普通に地球人の前に、シグマ帝国軍人達が宇宙船に乗ってやってきて、彼らの文明レベルの生活を地球上で楽しんだ。

ユーラシア大陸では、支配者として送り込まれるのは地球人と格好の似たシグマ帝国の先進地域の星の将校であったが、彼らは地球人支配者と何ら変わらぬ遅れた文明生活をしなければならない規律があったので苦痛であった。

時々休暇をとって、先進文明生活をしないと不満が噴出するのを恐

れたシグマ帝国軍は、アメリカ大陸では、先進文明を謳歌できる方針にした。

それも、ユーラシア大陸の文明が発達し、大航海時代になる前の時代あたりになると、シグマ帝国も、アメリカ大陸から姿及び形跡を消すことにした。

史実によると、インカ帝国は、「神々はそのうち戻ってくるぞ」というような話を信じ、スペイン軍を神々が戻ってきたと勘違いして負けたようなのである。

つづく

宗教（聖書）による支配の開始

地球人類の前に公然とは姿を現さない方針のシグマ帝国は宗教（聖書）を用いて地球を適正な方向に導くことにした。

だから、聖書なんて神聖なものじゃないですよ。

それは「聖書には嘘も書いてある。でもその嘘を本当のこととして考えると理想国家実現のためになる。」ということだけであろう。

以下のように考えればつじつまがあうと思われる。

この地球文明がもつと発達して、宇宙旅行なんて簡単ってな時代になった地球人類が、他の未開人類の生息する星を見つけたとして、その未開人類に対して行うことが、聖書みたいなものが神秘的な神によって書かれたことにして導いていくことだと思ふのです。

今の時代でも、そこまで考えの及ばない人は、未開人類側ですし、考えの及ぶ人は、未来の人類側（ある意味「神」）です。

天動説、創造論を含め科学的に間違ったことを聖書が書いたのは、精神文化というか政治的に未熟な社会で、科学技術が発達するのを抑えるためだと思ふのです。

日本の戦国時代に、近代兵器が使われたら、今のアフリカ諸国で多発している低レベルの内戦のように悲惨なものになったと想像できませんか？

それが世界中で起こるのです。

ダビンチやガリレオの時代に正しい科学を聖書が抑えなかったら、

かえって不幸な世の中になったと思います。

当該天動説、地動説の誤りについては、「『聖書によれば、あなたは神です。』と言われた男の体験談」に書いていることの他、宇宙人の存在を想像させない効果があったものと思われる。

「神なんていない。」というのは真実です。

神が自分以外の存在であると考えた頃の間違った感覚だったら、神というのは超人的な存在で、天から降りてこられるとか、全知全能の存在であるとかいうふうに考えてしまいます。

「神なんていない。」といっている人の何割かは「神も仏もあるものか。」という趣旨であり、また何割かは「自分が神じゃないかな」という風に思ったことで、神なんていないという結論に達した人であろうと思われる。

「自分が神じゃないかな」と思う段階は色々あると想像できるわけで、もっと上があるかもしれないけれど、私が「自分が神じゃないかな」と思っただのは、聖書の嘘の真意が多少理解できて、「私もそう書くわ。」つまり「私も聖書が書ける。」ということで、聖書とは神及び神から啓示を受けた者が書いた物という定義からすれば、聖書が書ける私は神といえるという結論に達したというわけ。神秘的な話じゃなく論理的な帰結です。

神の意味も、ここでいう未来の人類側ないしシグマ帝国側の支配者ということであって、勿論神秘的な神という意味ではない。

聖書は神及び神から啓示をうけた者が書いた物であるというのは白々しい嘘であって、聖書を読んで、自分も聖書と同じようなことを書くなあと考えるぐらい悟りを開くと、

なあんだ、聖書というのはこの境地に達した人が、神が自分以外の存在であると考えているような段階の人に、神が書いたんだとありがたがらせているだけの書物だと思えるのです。

それじゃあ、その境地に達した人なら誰でも聖書が書けるのか???
その境地に達した人なら自分勝手に聖書を書いてはいけないと悟っています。

このほか、
科学技術が究極まで進んだ状態の未来人類社会、あるいは現人類を導いた現聖書を書いた宇宙文明社会は、霊魂みたいなもの、霊界のような世界を創れる科学技術を持って、現世で存在する社会を適正に維持するために、前世の行いに対して次の生まれ変わり先を決めたり、間違つて生まれ変わった人を人生の途中で苦難に陥れたり、その逆をしたりできる。

何かの宗教がらみかの本で、金星ですごく科学文明が発達して、その人達が地球の霊界みたいなものを作ったとかいう風に書いてあったのを読んだ記憶があるが、神秘的ではなく、科学技術として、霊界みたいなものを作るのではないかと私は想像する。

つづく

イスラム教

理想国家を考えれば、「一人神の下平等」でいいはずだし、キリスト教の聖書で宗教的に世界を統一しておけばよいはず・・・。

地球以外の他の多くの星でもキリスト教の聖書一本で行っていると思われる。

イスラム教が必要なのは、宇宙人的に考えれば、現在における石油資源の偏在とかわりがあるのである。

シグマ帝国は、現在のようなアメリカ一国一人勝ちを相当以前に見て、イスラム教を注入した。

宗教的に凝り固まったというか戒律厳しい宗教地域に石油利権を与えることにより、地球全体のパワーバランスを保とうとした。

テロが横行する状況を見ると、それが良いか悪いかは微妙ではあるが、一国家が一人勝ちしている他の星が、どんな状況になっているかは、今地球に住まう我々には想像が付きにくい、テロの横行以上に悲惨な状態なのであろうか・・・

放って置けば、アメリカ的な国が一人勝ちするのが、キリスト教の聖書一本で行った他の多くの星において見られ、悲惨な世の中になったのを見てきたシグマ帝国は、イスラム国家が一人前になるのが遅かったので、成功するはずのない共産主義を持ち込んでみたりもして、アメリカ一国一人勝ちを防いだのであろうと想像する。

ひょっとして、宇宙の中で、というかシグマ帝国勢力域の範囲の中で、イスラム教のような宗教を注入したのは、はじめてか、それほど例がなく、イスラム教の一部の勢力によるテロの横行までは予測

し得なかったのであろうか？

しかし、共産主義と自由主義の対立時においても、結構悲惨な状態であったし、それに先立つ第二次世界大戦では核兵器の使用という人類史上最も悲惨な状態が生じたわけであって、あの原爆投下時点においては、ドイツも降伏し、まさにアメリカ一国一人勝ち時点であつたわけであり、その辺を全部考えると、アメリカ的な一国が一人勝ちしているような星は、その一国の言うことをきかないと、核兵器を使用して屈服させていき、放射能汚染で星全体が大変なことになっていつているのではなからうか？

地球温暖化で地球全体が大変なことになる前に、放射能汚染で星が滅んだという事例がたくさんあつたので、一国一人勝ちだけは避けるべきであるとのシグマ帝国の判断があつたのであろう。

つづく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0930d/>

シグマ帝国物語（地球侵略編）

2010年10月12日04時14分発行